

# やすらぎ



「歎異抄」 第十三章 続き

また、あるとき唯田房はわがいうことを信ずるかとおおせのそうらいしいあいだ「さんぞうろう」と、もうしそらいしかば「さらは、いわんことたがうまじきか」と、かさねておおせのそうらいしいあいだ、つつしんで領状もつしてそうらいしかば「たとえは、ひとを千人ころしてんや、しからは往生は一定すべし」と、おおせでうらしいとき、「おおせにてはそうらえども、一人もの身の重畳にては、ころしつべしとも、おほえずそうらう」と、もつしてそうらいしかば、「さてはいかに親鸞がいうことをたがうまじきとはいうぞ」と、「これにてはるべし。なにこともころにまかせたることならば、往生のために千人ころせといわんに、すなわちころすべし。しかれども、一人にてもかかない

## 「歎異抄」(第三十回)

標 暁 講述

ぬべき業縁なきによりて、害せざるなり。わがころのよみて、ころさぬにはあらず。また害せじとおもつとも、百人千人をころすこともあるべし」と、おおせのそうらいしいは、われらが、ころのよきをばよしとおもい、あしきことをばあしとおもいて、願の不思議にてたすけたまうということをしらざることを、おおせのそうらいしなり。

(真宗聖典六三三頁)

ここでは、親鸞聖人がお弟子の唯田に対し、本当に宿業ということを知っておるかどうかを試しておられる。「これにてはるべし」。このことひとつでわかるじやないか。つまり、意志の自由がすべての場合に行使できるということならば、往生のために千人殺せと言われれば、すなわち殺すでしょう。しかし、縁がないから一人でも殺せない。自分のところが善いから殺さ

### 光照寺寺報

発行所  
宗教法人光照寺  
〒331-0821  
さいたま市北区別所町102-2  
電話：048-651-2781(代)  
FAX：048-651-2753  
E-mail  
yasuragi@beige.ocn.ne.jp  
ホームページ  
http://www8.ocn.ne.jp/~koshoji  
発行人  
池田孝郎

ぬのではない。知性によって意思を自由にコントロールできるかのごとく思っているけれども、事実としてできないものである。そういう我が身であることを自覚させていただくことが、宿業の自覚である。

実例を示すと、国会中継の際、国会の反対討論をした代議士の方が、野次を飛ばした野党の人にコップの水をかけて大騒ぎになり、議長から退席を命ぜられ、後に懲罰委員会にかけられるという事態になった。国会議員とは、世間的な意味で指導者であり、多くの人に支持されて出てきた方である。野次を飛ばされたからといって、コップの水をひつかけるような蛮行はしないはずである。しかし、「はず」が「はず」でなかったのである。そこに問題がある。縁次第では何をするかわからない身というものの、これが凡夫である。その

凡夫が、究極の依り処とするのが阿弥陀如来の本願であって、我が身の上におこる善いところを究極の依り処にするのではない。その善いところは、また悪いところに変わることもある。自分のところに善いところがおこるのも、悪いところがおこるのも、そういうことに「喜一憂することなく、専ら阿弥陀如来の本願を最後の依り処として生きる。すべてこれは仏の誓願、他力の不思議によって、そういう生き方をさせていただくのだ、というお言葉が、この第十三章の中に述べられている。

(当寺) 法話抜粋要約、文責副住職 釈徹照 次回へ続く



孟蘭盆会法要

**旅行記**  
**推進員後期教習修了者感想**  
**報恩講**  
 十月三十日(日) 十時 厳修  
 詳細は三頁  
 詳細は〇頁  
 詳細は十頁



立ち止まるか、あるいは回避するかのいずれかを選択せざるを得ないものでしょう。

その時、人間は何んと考えるのでしょうか。一つは大いなるものからの試練と受け止め、挑戦するか、忍耐するか、より努力して越えようと思う人もあります。二つめには、諦めて断念し、時間が解決すると思うか、放棄してしまいか、あるいは別の方途を模索するかを考えるでしょう。三つめは、絶体絶命に陥り、自己を見失う人もあるでしょう。

さて、ここで問題ですが、障害に直面するまでの出発点から過程が辿った方向は、どこから、どこへ向かっていったのが問題です。そして、障害を越えた果てに辿りつく目的地は何であったかが問題です。

恐らくは、意識、無意識に自己の持てる力を發揮して、自己を實現して、幸福を得ることとして全ての人が出発せしめられているのでしよう。それは、カールブツセの「山の彼方になお遠く」幸せを求めて彷徨する姿でありましよう。

ここに本当の幸せがあるのでしようか。この問いが大切です。ある学者は、人類の精神文明が開花開いた時代は、紀元前であると明言

しておられます。そのことは、お釈迦様も、ソクラテス、プラトンも、孔子様も、キリスト様も皆紀元前の方々です。現在如何に科学文明が発達しても、思想、哲学が発達しても超えることの出来ない事実です。紀元前の聖人、偉人、賢人も皆、「本当の幸せ」、否、「絶対幸福」をいのちをかけて求め得た方々でありましよう。

それらの方々の共通の方向は、磁石と同じで、Nの北を指すと同時に、Sの南を指していることで、人間を超えた大きな広い世界の救いを指すと同時に、人間の欲望の渦巻く世間に苦しむ人々への救済を願っておられることです。人間を超えた世界を光の世界とすれば、人間の欲望の混沌の世界を闇と表現出来ます。われわれはこの人間の闇の世界に方向をとって、暗中模索しながら幸福を求めて、彷徨うて、ある時は喜び、ある時は挫折し、絶望を繰り返している存在です。この事に目覚められた方々が既に紀元前におられたのです。そのお一人がお釈迦様であり、お釈迦様のお悟りが「如来本願」であり、「南無阿弥陀仏」であると気づかれた方が親鸞聖人でありました。悪人の自覚こそ、救済の正機であり、方向転換です。

南無阿弥陀仏。

### 真の依り処

あなたは何のために生きているのですか。よく聞くことばですが、「瞬皆様」どうお答えになりますか。

科学の進歩は私などついていけない程ですが、便利になることは大変良いことですが、もつと、もつと、きりがありません。人間はこれで満足ということはありません。しかし、心の問題とりわけ時間をかけて右のような事を深く深く自分に聞いたこととあります。人間は皆自我が強くなり中心です。何事も自分で決め行います。結果が良ければ良しとし、悪ければ相手のせいにして自分を良しとします。どうにもならない罪深き者です。

こんな罪深き私を、如来様は可哀想と思われ、如来の慈悲と智慧にふれさせていただきまして、私どもをいつも照らして、いつも守っていて下さることに感謝を申し、お念仏申させていたただいております。

岡田ノリ子

### 鈴の音

いかに十方億土の道のりといえども、一歩から始まる

藤元 正樹 (地上に立つ宗教)

# 光照寺、旅行記

平成二十二年五月二十九日～三十日「光照寺旅行 沖縄・南国の自然風土と琉球王朝の宗教観を訪ねて」参加者の方々の感想をお寄せいただきました。幹事様はじめ参加者の皆様にこの紙面をお借りして御礼申し上げます。

(編集長 副任職)



しげま小児科医院にて

沖縄・南国の自然風土と琉球王朝の宗教観を訪ねて

川澄 英明

羽田空港第2ターミナルビルの待ち合わせロビーに、これからの旅行への期待と興奮を秘め、いくぶん緊張した33名の笑顔が、時間通りに集合しました。何事もスタートが肝心です。この時、幹事一同、きつと良い旅行になると確信したのです。

私達は5月29日午前10時15分沖縄に向けて離陸し、機上の人となりました。

今回の沖縄旅行は、新年会の折にご任職から提案され、昨年の「願船寺と大洗周辺の旅」に引き続き幹事長を仰せつかりました。大洗は十数回足を運んで勝手知ったる場所ですが、沖縄は13年ぶり2度目で不安がいっぱいでした。添乗員さんが羽田から同行してくれること、現地ではバスガイドさんが案内してくれることになり幹事一同にとって、これは大変心強いことでした。

決定から旅行まで4ヶ月ほどありましたが、訪問先の絞り込み、旅行会社との打ち合わせ、幹事さん同士の打ち合わせ、ガイドブックの作成と、過ぎてみればあつという間のことでした。

那覇空港に着くと観光バスが出迎

えてくれました。明るく元気いっっぱいのガイドさんでした。高速道路をうるま市へ。最初の訪問先「しげま圃法道場」



志慶眞先生の講演

へ到着。志慶眞先生の奥様初め道場の皆さんが我々を出迎えてくれました。2005年NHK深夜放送「この時代の」2日間のインタビューで大きな反響のあった志慶眞文雄先生に直接お会いし、約2時間に及ぶ講演をお聞き出来たことはたいへん感激でした。先生との自由な懇談の後、第1日目の宿泊先うるま市内の「ロイヤルガーデン・リゾート・オキナワ」へ向いました。

2日目は、いよいよ観光で、「かどな道の駅」の屋上から、だだっ広い、米軍基地を見学の後、南へ向い、琉球王朝の信仰の聖地である斎場御嶽を見学しました。オキナワワールドでは、エイサー広場でお腹に響く太鼓と三線とおどりの、「スーパーエイサー」を楽しんでから、玉泉洞（鍾乳洞）を見学。バスで南へ向い、ひめゆりの塔、平和祈念公園から北へ戻り、沖縄開教本部を訪問してから、本島中程の名護市にある、「オキナワ・マリオット・リゾート&スパ」に宿泊

しました。訪問先の多かった2日目を無事クリアして、ちよっぴり安心。夕食のあと有志はカラオケを楽しんでから眠りにつきました。最終日、沖縄美ら海水族館で巨大な水槽の中を泳ぐジンベイザメや、マンタを見学。この広い会場はかつて沖縄海洋博のために開発された場所、海を見下ろす高台にありました。そのあと首里城公園、識名園と主要な観光施設を沢山巡ることが出来ました。

沖縄は、この時期梅雨入りしており、時折小雨がりましたが、暑さに悩まされることなく快適でした。ただ、沖縄らしい青い空と強い陽射しには改めて会いにゆきたいなあと思いました。



沖縄別院にて

自己を問ひ返された沖縄

淡海 雅子

同じ国でありながら全く異質の文化と歴史を持っている沖縄。青い海とサンゴ礁の白、明るいイメージの背面には悲しい戦争の歴史がある。おりしも普天間問題に揺れる中で、沖縄訪問でした。

今回の沖縄旅行には志慶眞先生のお話を伺う、東本願寺別院を尋ねるという光照寺ならではの旅の目的がありました。志慶眞先生のことにはNHK「心の時代」に出演された時の対談録を読ませていただき、是非お話を伺ってみたいと思っておりました。沖縄という先祖崇拝の根強い地で、しかも、戦争を直視せざるを得ないという中で、真宗を勧化したいという先生の願いの深さに情熱を感じ、真宗に出遇えた喜びと、信仰の深き姿を拝見させて頂きました。本来あるものに背を向けてエゴの中で生きていく私に、私のエゴを超えて生かされる「如来、我となる」というセルフの道をお話し下さいました。私が善悪を分別している姿を超強力自我発動装置だとして指摘く



ださり、全くそのとおりですと深く頷かせてもらいました。絶対善という事は私の中にはないのだ。本来の自己に出遇い、本当に充足できる世界を知る。セルフの世界に南無して生きよ。ありたいお言葉でした。また、別院でのお話しでは沖縄という地での布教の難しさを感じました。

初めて沖縄を旅行したのは二十代の時でした。その時に感じた戦争への意識、その痛みは真宗に触れてから顕かにならなくなってしまいました。戦争反対、世界平和という思いは同じですが、そこに横たわる人間としての痛みは、より一層深いものになって感じられました。ひめゆりの塔資料館に展示されていた、犠牲者への追悼の言葉に涙が止まりませんでした。「さるべき業縁のもよおせば、いかなるふるまいもすべし」

「善し悪しのふたつ総じてもつて存知せざるなり・・・」という歎異抄の言葉が身体に突き刺さり、ただ念仏でした。日常の些細なことに悩み、不平不満を言っている私の申し訳のない姿を、自分の中に見ざるをえませんでした。世界を見渡せば今なお、戦争が起りつておられます。その戦争もまさにエゴのなせる業です。悲しいとしか言いようのない現実を直視せず、人ごとのように結局は考えていたのです。批判的な立場で戦争を論ずることは出来ませんが、そうすることには良い悪いの二元化が働いています。戦争を知らない私にとつて出来ることは事実上目をそむけ



ず、戦争の体験を聞き、子供や孫に語り継ぐことが使命と感じました。それは人間の本来の姿を見つめることであり、私たちの命そのものを考える機会だと思えます。志慶眞先生の布教への情熱も、東本願寺別院の願いも、この旅行で私を感じたことも、全て「生死出づべきみち」を本願に問ひ続けていくという、私たちの持つ大命題に繋がるのではありませんか。

生憎の雨の中の旅行でしたが、沖縄料理も泡盛も美味でした。共に旅した仲間も最高でした。そして、何よりも考える課題を頂けたことに感謝しております。 合掌

沖縄旅行に参加して

赤秀 品枝

もし、何か一つ望みのものを与えられるとしたら、九割の人が「健康」だと答えるでしょう。そういう私も「運動」をすすめられているのを理由に、「ジム」に通って体操をしています。そこには六十代七十代の男女がとて多く、「健康」に関心があることが解ります。五月末、三日

間の光照寺の旅行に参加させていただきました。豪華なホテルにおいてい食事、十分に満足した三日間でした。

一度は志慶眞先生の会座に参加してみたいと思っていました。この度念願がなつてお話を聞きできてとても良かったです。先祖崇拝の独特の地沖縄で、浄土真宗広まれと、御夫婦ががんばっておられる姿に拝し、土地の方々がこの御夫婦を援助されておられることに感銘しました。お話の中で、「地位、名譽、健康等はないよりあった方がよいが、無いよりあった方がよい程度では仏法はわからない。どうしてもなければならぬものが仏法である」とお聞きしました。昨日も悪く、今日も悪く、明日も悪い。なぜ明日も悪いのか。絶対悪の私だからだ」と先生は言われました。煩惱に目鼻がつき名前がついたのが私だと。だから、どこを切つても煩惱でしかない。

我々は、わが身かわいさで生きていく。私さえ良ければ、家族さえ良ければ、日本さえ良ければ、こういうエゴで生きています。たしかに沖縄に基地がある。沖縄の人の苦しみに解るようでは本当は解っていません。私の住んでいる近くでなくとも良かったと、思う気持は恥ずかしな方があります。口蹄疫で三十万、四十万の牛や豚が処分されました。胸が痛みます。が、それ以上のことが私に何が出来るでしょう。

お念仏申すしかないということはこのことでした。

ハイサイ沖繩

住職 池田孝郎

「ハイサイ」は沖繩のことばで「こんにちは」のことです。

真宗大谷派は沖繩開教本部を置き、沖繩開教に努め、この度、沖繩別院をこの四月十五日に設立されました。この機会に、既に在家として志慶眞文雄先生が自院の「しげま小児科医院」にて、「まなざし聞法道場」を開院と同時に、医院の二階に道場を設け活動しておられるので、是非とも訪問したいと任職より提案し、幹事の方々の賛同を得て実現したものです。

私は若い時より沖繩には関心がありませんでした。その関心の背景の一つには、沖繩の歴史です。次に、沖繩の宗教、次に太平洋戦争と今日の沖繩の米軍基地の問題、そして、沖繩に於ける「浄土真宗」の現状と、若い時から今日までの全ての関心が、光照寺旅行としての最遠距離の旅として実現しました。私の沖繩への関心のテーマの主旨を幹事の方々はよく理解されて、近畿ツーリストの石田氏と行程を練り上げて、それ以上の内容をもって企画して下さいました。

私の関心テーマの順を追って感想を述べ



べてみたいと思います。

「まなざし聞法道場」にて、

志慶眞先生は自らの浄土真宗に値遇され、その慶びを自らの求道のご了解としてお話し下さいました。副住職が志慶眞先生の法話のテープ起こしを企画しておりますので、詳しくは譲るとして、「エゴ百%の自己」と、如来、我となるセルフの私の目覚め、絶対善としての我と、絶対善としての如来の出会いの、第一人称の転換とでも云いましょうか、第二の誕生としての我として、回心懺悔のところに仰ぎみる世界を、南無阿彌陀佛と頂かれた内容」と聞かせて頂き感動致しました。沖繩別院の本尊は、ハワイ開教された沖繩出身の玉代勢法雲開教使の「マカレー東本願寺」のもの聞き、浄土真宗を荷負、いのちを懸けての伝承を、藤井輪番様のお話より感じました。



守礼の邦の門に象徴する王国としての沖繩、島津藩の統治、日本との歴史下にて、激戦の悲劇。そして、望まぬ基地の悲しみ。平和な心優しい沖繩の人々の憶い。青き美しい珊瑚礁の、海の神々の嘆きの声を聞く思いでした。沖繩に平和を。沖繩に、願わくば、南無阿彌陀佛の教が伝わること念ぜずにはおられません。有難うご座居ました。 合掌

はるか沖繩をたずねて

坊守 池田邦子

ハイサイ沖繩

はるか沖繩の地、梅雨の最中、戦争を知らない私にとっては、沖繩の方のかかえている現実問題。それから、過去の悲愴さ、悲哀さを訴えているかの様な、重たい雨のしずくの第一歩でした。

光照寺特有の聞法会を中心として、見聞を広める旅の始まりとして、しげま小児科医院二階に、「まなざし聞法道場」をたずね、志慶眞文雄先生の講演を聴聞致しました。先生の真摯に、「真宗の教えを伝えずば止まじ」の熱意をもって、取り組んでいる姿勢に会い、身の引き締まる思いを感じました。先生の奥様にお会い出来、お手伝いの方、聞法に来られた方皆様と共に、聞法出来た事に感謝申し上げます。日常の煩惱生活にふりまわされている、エゴなる我が、本願セルフにあずかれるのか、今後の歩みを問われている聞法会でした。

首里城公園の守礼門には、「守礼之邦」と扁額が掲げられているのを見上げ、私の名の一字にふれ、礼節を重んずることに改めて、何か亡くなった父と母の事が思い出され、深々と頭を下げ、門をくぐったものでした。五百年にもわたる琉球王国の隆盛をしのび、また長い歴史の中で暮らす、沖繩の方の心のひだにもふれた思いを致しました。 この度は盛りだくさんの見学地をたずね、政治的にスポットの当たっ

た基地の移転等でゆれる沖繩を目の当たりにし、真宗門徒の一人として、どう自分の問題として考えて行かねばならないかをつきついたられた思い

と、沖繩の人々の心情を思うにつけ、何か重く心に残る旅でした。

次に訪ずれる時は、まばゆいほどの太陽、紺碧の海、空、白い砂浜、又異文化を感じるこの地に立たずんで見たいと思いました。

沖繩旅行感想

池田孝次郎

この度は、妻と子供二人(双子一歳七ヶ月)家族四人揃って初めて参加させて頂きました。子供たちにとっては初めての飛行機や、バス移動のある団体旅行でもあり、保護者の親としてはとにかく参加者の皆様に迷惑をかけないようにと、無事を願ひ、気持ち的には、ハラハラドキドキの行程でありました。

ちょうど、五月末に、政府が普天間基地移設に関して結論を出すという時期とも重なり、『戦争と平和』



酒飯 盛りあがりしました

についての思いもめぐらしながら、旅行テーマである、沖繩の「自然風土」と「宗教観」ということを体感するよい機縁となりました。

沖繩は一般的には穏やかな南の島、観光イメージがありますが、歴史深い、アニミズム宗教的土徳に育まれた地であり、そこにおいて、まさに戦争という悲劇が起きた場所であることを肌で感じました。



平和を願いながらも、戦争を起してしまふ人間の闇の事実を肌で感じ、このような悲劇は二度とこれからも、子供たちの時代にも、起きないことを願わずにいられません。

そのような自分も含めて、人類は矛盾を抱えて生きていることに改めて気づき、感じさせて頂いた旅でした。

最後に、任職ならびに幹事様、ご法話を頂いた志慶眞先生、温かく迎えて頂いた沖繩開教本部長藤井護様、支えて頂いた関係者皆様へ感謝致します。

「光照寺の沖繩旅行に行つて」

大塚 誠一

陽子

雄介

真由

今回初めて沖繩に行つたのですが、ちょうどその頃は、鳩山政権で、

基地を沖繩県外に移設すると公約して、五月中に解決すると言つていたけれど、やはり県外は無理そうなので、辺野古への移設案で大変な時に行つたものであり、ただの観光気分になれない複雑な気持ちでした。そして、最初の一日目は、浄土真宗の聞法道場を開いておられて、小児科医院を開業されている、志慶眞文雄先生のお話を聞きました。先生なりの浄土真宗の解釈で、個人を「エゴ」、根源（如来）を「セルフ」という言葉でお話されて、なんとなく分かつたように感じました。次の日は、道の駅嘉手納に行き、嘉手納基地を一望し、次に世界遺産でもあり、沖繩の聖地とされる、斎場御嶽を見学し、次におきなわワールドへ行き、その鍾乳洞は長くてすごかったです。

次に、平和祈念公園の中の埼玉県民のお墓まで歩いて行き、たくさんの方が戦争で亡くなられたのが分かりました。また、ひめゆりの塔へも行き、女学生までも戦争の犠牲になつたのは、本当に悲しく思いました。そして次に、東本願寺沖繩別院へも行き、その藤井師の話の聞



き、お参りして来ました。沖繩は、あまり浄土真宗がさかんでなく、ご苦労されているとのことでした。三日目は、沖繩美ら海水族館へ行き、子供達は喜んで見ていました。次に、首里城へ見学し、琉球王朝時代の歴史を感じました。その後、琉球王家最大の別邸である識名園へ行き、日本様式と、中国の様式がまじつた感じの庭園を見学しました。

今回は、沖繩の文化や歴史に触れる、もりだくさんな旅行でした。今では沖繩は観光地としてのイメージが強いですが、未だに戦争のきずをひきずつていて、アメリカ軍の基地が沖繩の大半を占めていることに驚きました。沖繩の人達も、長い間基地問題に悩まされていることが、バスガイドさんの話でうかがえました。沖繩の人は、いいと思うことは取りいれて、自分に都合の悪いことは、他へ向けない、という性格が、今の沖繩をなしているなあと、思い、優しさの中にたくましさを感じました。

本当に、いろいろと勉強になり、充実した三日間の旅行でした。ありがとうございました。どうぞございました。

ブツダに学ぶ「生死を超える道」

佐々木 玄 吾

志慶眞文雄先生は毎月しげま小児科医院の二階で、「まなざし聞法道場」を開いて、沖繩の方々には浄土真宗の教えを伝えておられる。私共はその会に出席して、沖繩の方々と共に

「生死を超える」とは、苦を超えることである。人生は四苦といつて、生苦、老苦、病苦、死苦がある。これは人間の誰もががれることのできない苦しみである。この苦しみを超える方法として、釈尊は四諦の教えを説かれた。その四諦の教えによつて自己とは何かということがわかる。



人間は生まれながらに自己中心である。エゴを持つて生まれてくる。この私のエゴを超えるのが仏道である。エゴは涅槃の世界との関係交渉によつて超えることができる。その事を住岡夜晃先生は、

如来がわかれば、自己がわかる  
自己がわかれば、如来がわかる  
わかれぬものは、自己である  
といわれた。聞法によつてエゴそのものである自己を知り、如来を仰ぐことができる。自己をどのよう

るのであるのか。  
夜晃先生は、きのうも悪く、きょうも悪く、明日も亦悪い。ただ念仏

と教えられた。又志慶眞先生は、長生きしているというときは、悪を犯して生きていくというのだと話される。私は八十歳の老人である。一生造悪の凡夫である。申しわけありませんと、ただ念仏することである。



一緒に沖縄民謡1

沖縄旅行に参加して

佐々木 文子

今回は護持会の旅行に初めて参加させて頂きました。沖縄へは三回目でした。二泊三日の行程ではかなり多くの内容があり、真慶眞先生のご法座を中心に、全島に亘る主な観光スポットに連れて行って頂きました。

この度一番印象に残ったのは、玉泉洞でした。秋芳洞より更に大規模な石灰岩の鍾乳洞で、上から下から無数にある鍾乳石、流れる水の上の歩道を進みながら、不思議な地下空間に立つて、膨大な年月を経た地球の歴史を思い、お念仏申したことです。かなり急いで二十分、幼児達もよく歩いたなあと感じました。

折しも、五月末までに決着をつけると宣言された普天間基地問題の最中で複雑な思いであったが、私共の楽しい旅も、沖縄の方々のご苦労の上になりました。のだと申しわけなく思います。

光昭寺様の厚いご配慮により、総勢三十三名が聞法の友として、合掌、念仏し感想を述べあいながら、無事に楽しい旅を賜ることができました。有難うございました。

沖縄旅行に参加して

外村 欽市

今回始めて姉弟四人で、光昭寺さんの沖縄旅行に参加させて頂きました。

足掛け三年姉弟四人で、ローテーションを組み、母の介護をしてきました。一昨年母を送り、一周忌も終えてホッとしたところへ、弟から光昭寺さんの旅行の話があり参加した次第です。

折から基地問題の報道がマスコミを賑わしており、一度は現地を訪れてみたいと思つて居りました。光昭寺さんの旅行は単に観光のみでなく、志慶眞先生の講話は、「人とし



一緒に沖縄民謡2

ていかに生きるべきか」を考えさせられ真に有意義でした。平和祈念公園、ひめゆりの塔では、「他人によつて作られた」運命の残酷さに悲痛な思いで一杯でした。

一面、住職さん、副住職さんの円満なお人柄と、可愛い双子のお孫さんに接して、とても楽しい旅行でした。

末筆ですが幹事さんお二人のご苦労に感謝いたします。

沖縄旅行に参加して

野島 耕三

一度沖縄に行つてみたいと思つておりました矢先、光昭寺様より沖縄旅行のご案内が届きました。

光昭寺様にご縁を頂いて三年になります。護持会総会にもご無沙汰しておりましたが、亡くなった娘がこの旅行に導いてくれたように思い、ありがたく参加させて頂きました。

「南国の自然風土と琉球王朝の宗教観を訪ねて」の旅は観光だけではなく、聞法と勤行を日程に組み、光昭寺様ならではの有意義な旅になりました。

一日目は、うるま市の「まなざし仏教道場」で志慶眞文雄先生の、「生死を超える道」について、講演をお聞きしました。自力と他力、自我とエゴについて心の内面と向き合い考えさせられました。お話の後、

まなざし道場の皆さんが沖縄の茶菓でもてなして下さい、仏教で繋がる温もりを感じました。

また、先生より、「沖縄から親鸞へ」というご本を全員に頂きました。先生の、「生死を超える道」についての対談と常講寺ご住職の「首里城からの出発」という講演録が特集されており、心に響く内容でした。

翌日、東本願寺沖縄別院をお訪ねして勤行させて頂いたこともありがたい経験でした。

二日目、三日目は沖縄の観光名所を巡りました。琉球王朝の歴史、沖縄特有の文化にふれ、神社仏閣を建立しないという宗教観も、日本と異なつていて面白いと思いました。

ひめゆりの塔、平和祈念公園では戦中戦後の悲しい歴史をあらためて実感させられました。

おかげ様で光昭寺様にご縁を頂いた皆様と日々親睦を深めながら実り多い旅を楽しむことが出来ました。可愛いお子さん達とも一緒に和やかな旅になりました。

光昭寺



沖縄民謡楽しみました

住職様はじめご家族様、旅全般にいつも細やかにご配慮下さった幹事の皆様、大変お世話になりました。厚くお礼申し上げます。

楽しかった沖縄旅行

平山 正三

この度、光照寺さんの旅行会に初参加させて頂きました。沖縄には三十三年前に一度行ったことがあり、その後どのように変わったか観てみたいという気持ちから参加をした次第です。

当時は、車は右側通行という時代でしたが、今は左側通行になり、高速道路が整備され島内の移動も便利になっていました。



斎場御嶽にて1

初日は、聞法道場、「まなざし仏教塾」を開いておられる志慶眞文雄（しげま・ふみお）先生の講話を聞く。この中で、「自我（エゴ）だけでなく自己（セルフ）を生きる」ということを話された。

自我とは自分中心であり、自己とは、本来そのようにあるもの・全てのみなさんということであり。自己は「中心（根源）」であり「全体（一切・真如）」であるというお話でした。

私のような凡人には話としては理解できていても実行はなかなか難しいと思われる。

二日目は、嘉手納基地を見る。日曜日で米軍も休みで非常に静かでしたが、基地の大きさには改めて驚かされた。次に斎場御嶽（せいふあうたき）を見学。ここは国王の即位式や国の豊穰や平和を願い、王様自らがお参りするなど国の大切な神事が行われた場所である。本土では神社仏閣など物を造り崇拜しているが、沖縄は自然の物を崇拜するという文化の違いを感じた。

その後、おきなわワールドを見学、次に平和祈念公園内の摩文仁の丘にある埼玉県戦没者慰霊塔及び沖縄戦で亡くなられた全ての人々の氏名を刻んだ「平和の礎」の参拝、また、ひめゆりの塔での参拝と資料館の見学をし、戦争が如何に悲惨で残酷なものであるかを再認識させられた。最後は東本願寺沖縄別院を訪問し一日を終わる。

三日目は沖縄美ら海水族館を見

学、次に首里城及び識名園を見学し琉球王朝の歴史と繁栄を垣間見た。初参加で皆さん初めての方々がばかりでしたが楽しい三日間でした。皆さんありがとうございました。



斎場御嶽にて2

沖縄旅行

松橋 典子

小雨降る中で三日間の沖縄旅行二日目五月三十日おきなわワールドに行きました。沖縄の南に位置する南城市にある沖縄ワールド。エイサー広場での人気のパフォーマンス「エイサー」、旧盆の先祖供養の集団舞踊で盆踊りの一種ですが、おきなわワールドでは連日公演しているそうです。本来のエイサーのスタイルにアレンジを加えて、躍動感あふれる獅子舞、大きな太鼓を打ち、回転しながらジャンプする荒技、青年団の方々交替で毎日舞ってってくれます。若さと踊りのすばらしさに大きな拍手がなりやみません。とてもすばらしく今も目に焼きついてます。

その後、玉泉洞に行きました。琉球石灰岩の容食した鍾乳洞。全長五キロメートル。観光洞の長さは、八

百九十メートル。古来から風葬地や第二次世界大戦中の避難壕として一部知られていたが、一九六七年（昭和四十二年）愛媛大学学術探検部によって全容が発見されました。私はこの八百九十メートルもある鍾乳洞の中を歩きました。こんなにも長い鍾乳洞、自然の力のすばらしさとみごたさの中に、色々の形があり、出来るものならもう一度ゆっくり歩いてみたいと思いました。

強行スケジュールの三日間、とても考えさせられる事。又、南の国ならではの明るさを肌で感じて来ました。バスガイドさんのお話も大変すばらしかったです。

どんなに苦しくても、そして、つらくても、悲しくても、いやな事を人におしつける事が忍びなく、政府の方々が一番良い方向になる様にと、耐えて明るく生きる沖縄の人達。米軍嘉手納基地の構築によって地域が分断されたため、残されたわずかに二、五八kmの狭い地域に、一万三千七百人余の町民がひしめきあつた生活。そして、爆音の為に耳に障害をもつ人も多いとの事、皆んなが笑顔で暮せる日が来る事を心より祈ります。

最後にこの旅行を考えてくださいました光照寺様、旅行の計画を立ててくださった役員の方々に感謝致します。

沖縄旅行記

三輪 民子

那覇空港から高速で十五分、沖縄

北ICを出て十五分程でしげま小児科医院につき、立派な医院の二階の聞法道場で全員、聞法に來られた會員の方と一緒に、志慶眞先生のお話しを聞くことが出来た。仏教は本来人間の思い込みや偏見を照らす智慧の教えであり、その教えと出遇えていることに気づかせて頂く旅となった。二日目、世界遺産である斎場御獄(せいふあうたき)を見学、ガイドさんの説明を雨の中で聞き、最も見応えのある三庫裏(サングーイ)、三角形をした洞門の奥に光が射し込んでいる様子を想像したり、洞門の奥まで行きそこから沖の久高島を望んで、ここが聖域であることを感じて来た。沖繩ワールドでは、先づ、「願寿御膳」・命薬ぬちぐすいの集大成である、もづくやゆし豆腐鍋、古代米の御飯等を食べて、スーパージェイサー、躍動感あふれる獅子舞、大きな太鼓を打ち、回転しながらジャンプする荒技に思わず、「ブラボー」とさげんでしまった。エイサーに夢中で気がつくと、グループの人が誰もいなくなつて、玉泉洞の入り口で淡海さんに出会い、ほつとして一緒に歩いた、中は涼しいくらいで、流れの上を歩く所が多かったが足場が良く出来ていて、照明も程良く、見ごたえがあった。一人ではこわいくらいいどても長く感じた、やつと外に出て、皆に追いつきたくて走つたら、熱帯フルーツ園で迷子になりかけたが何とかバスに乗れた。平和祈念公園、摩文仁の丘の埼玉県の戦没者の名前をさがすことが出来た。ひ

めゆりの塔 資料館見学、今元気で居ることに感謝し、東本願寺沖繩開教本部では、ハワイから届いた御本尊と須弥壇等拝見。本堂で記念写真をとりました。二泊とも素晴らしいホテルで食事も部屋も申し分なし。三日目の沖繩美ら海水族館、首里城公園、識名園も一応全部見学することが出来、皆和気藹々の旅行でした。皆様お世話になりました。どうぞございました。

(釈尼民徳)

沖繩旅行に参加して 渡邊 晃 伸

ひさしぶりに旅行を姉兄弟と4人で参加しました。父を12年前、母を昨年看取り、どうにか介護も終わりましたので、昨年父の生まれ故郷に4人で新潟県上越市高田に行きました。今年もどこか旅行と考えていたところでした。沖繩は昨年末に親子二人で行くつもりでしたが、私が暮に入院しましたので行けませんでしたが、丁度寺で沖繩旅行の話がありましたので、皆に話したところ行くというので参加しました。3日間は雨でした、雨男は私。旅行の7割は雨に降られます。沖繩は内地とあまり



嘉手納飛行場前にて

変わりは無いと思ひ、高速より眺めていました。所々に戦争の爪あととトーチカがたくさん見えました。聞いて見るとそれは墓でした、大きな墓に驚きました。やはり文化の違いを感じました。飛行機の音もなく静かでした。聞いてみると土日は米軍が休みとのこと、どんなものか聞いてみたかった。太平洋戦争の爪あとは摩文仁の丘、ひめゆりの塔、を見学。ひめゆりの塔では涙が止まりませんでした。もう少し集団自決の洞窟などに行きたかったが、これだけでも戦争は悲惨だ、なぜ戦争をしなればならなかったのか、沖繩別院で基地反対、戦争反対と話されていきました。宗教界は戦争を止められなかったのか、考えてみると宗教問題で紛争が起こるので無理ですか。広島、長崎、に行きましたが地上戦があったのは沖繩だけ。父は沖繩へは絶対に行きたくないと言っていたのは、中国で地上戦を経験したからだと思ひました。観光は沖繩ワールドはエイサーに感動。美ら海水族館のキャッチフレーズは、「世界一と世界初がここにある。」

世界初なのは巨大アクリルパネルの水槽。

世界初なのはジンベエザメの繁殖目的の複数飼育。

マンタ(オニイトマキエイ)の複数飼育なども世界初らしい。とてもよかったです。

大麥満足の旅行でしたが、少し忙しかったです。また集合時間を守らない人がいて残念でした。又、もう



ひめゆりの塔にて

ひとつ残念なのは、沖繩料理が食べられなかったことです。

真宗と沖繩 副任職 池田 孝三郎

今回、光照寺旅行は最も遠方の沖繩を訪問する機会を得ました。

正直、団体旅行を企画する側としては遠方になればなるほど、神経を使います。航空機を利用するにしても電車や貸切バスと違って、台風がきて予定通り行かなかったらどうするかと天候を気にしたり、幼児から高齢者総勢三十三名の参加者の体調を心配したり、旅程に無理がなく、満足が得られるものになっているかどうかなど、心配はつきませんが、企画の段階で、幹事の川澄氏、淡海

氏の綿密な打合せと旅行会社の石田氏のお陰をもって無事旅行が出来たことに安堵し、振り返るとあつという間の三日間でした。

さて、旅行の期間中は、沖繩の基地問題で大騒動の最中ということもあり、緊迫していましたが、嘉手納基地見学の際は、基地が休みで静まりかえり、バスガイドさん曰く、普段は轟音で住民にとつて大変な思いをしているというのが印象に残りました。

初日に、志慶眞文雄先生（しげま小児科医院長）のお話しを伺う絶好の機会を得ました。先生は電気工学を学び、その後、物理学の素粒子を研究され、その後、医学部を卒業し、小児科を開業され、病院の二階を聞法道場として開放して、熱心な聞法生活をされているとお聞きしていたので、是非ともお話しをお伺いしたいという思いが叶って非常に嬉しかったです。

先生の歩みはどの分野一つをとつても困難であるのに、先生を突き動かすものは何かというのを先生のお話から聞き取りたいという思いでした。

先生のご本でもご紹介されますが、「生死を超えたい」という問題を先生は抱えておられて



いて、奥様の延子様の聞法の勧め、細川巖先生との出会いということが先生の背景にあり、「自我（エゴ）からセルフ（一如の世界）への目覚め」というお話に時間を忘れ聞き入りました。独特な信仰風土の沖繩にて僧伽を形成され、奥様はじめ、お世話いただきました現地の同朋の方々に合掌し、名残り惜しく宿泊ホテルへと向かいました。

二日目の平和祈念公園、ひめゆりの塔資料館を見学した際は、陸上戦線の痛ましさに声も出ず、念仏哀悼し、戦争悲劇を繰り返してはならないという思いを抱きました。

東本願寺の沖繩別院は今年の四月に設立奉告法要を厳修したばかりで、とてもタイムリーの訪問でした。沖繩開教本部が別院に移転し、沖繩開教の使命を藤井護輪番さんから伺いし、どのような土地であつても親鸞聖人のみ教えを同朋と共に味わっていくという開教の原点というものをお教示下さったように受け止めました。

今回、沖繩本島を北から南まで長距離でありましたが、参加者も予想以上に多く、皆様から喜びの声をたくさん頂き感謝しております。ホテルも最高でしたし、料理やお酒も美味しく、沖繩民謡に酔いしれて有意義な旅行でした。

これからもお寺企画ならではの旅行を企画していきたいと思っておりますので是非ご家族、ご友人をお誘い頂きましてご参加されますようお願い申し上げます。

### 推進員前期・後期教習を終えて

小刀称 栄  
ゆり子

真宗入門講座推進員教習に今回ご縁があり参加させて頂きました。

前期は東京教区真宗会館に於いて四月五日から七日迄二泊三日に渡り十名の方が出席され、講師には近田昭夫先生（東京七組頭真守住職）にご出講頂き、「あなたに帰る家がありますか？人生列車の旅」をテーマにお話を頂きました。私共は先生の語り口に独特な雰囲気を感じ、仏教のお話を聞いたことはありましたが、初めて「なるほど」と家内と頷かせて頂く事ができました。講義の中で先生は「私の思いによってこの身の事実に立てない。このことが苦しみの根本である」と説かれ、この身の事実に立てないと言ったところに自分が自分として帰って行ける場が阿弥陀の方から開かれていることを教えて頂きました。先生のお話の中で印象に残った言葉など熱心に語り合い、あつという間の二泊三日を過ごしました。

研修中は、お話や座談会の時間の他に、「お内仏のお給仕の仕方」「お勤めの練習」また、同朋会運動の歩みについても学ぶことができました。参加スタッフの方々が解散を惜しんでの前期教習並びに研修会でした。

後期は京都真宗本廟にて六月一日から三日迄二泊三日東京教区推進員後期教習奉仕団として開催され、東京教区のスタッフを含め十四名の方が参加されました。高橋寛俊先生（山形正徳寺住職）のご講義を頂きました。講義・座談、三日

間はこの繰り返しで進みました。現在の世の中、朝、新聞・テレビにて殺人事件が毎日の様に起こっており、また、死刑の問題と「命の大切さ」について講義並びに座談を参加者全員で語り合いました。色々な意見が出ましたが、結局結論がませんでした。もっと根深い所に問題があるとの事。「ただ念仏あるのみ南無阿弥陀仏」が大事である。

京都の三日間は朝六時起床、清掃。六時五十分より御影堂にて晨朝参拝（お勤め）帰敬式に参列。法名伝達式。朝食、講義、座談、夜は二十一時迄とスケジュールがぎっしりと組まれておりました。真宗本廟奉仕団としましては、御影堂門上階の釈迦三尊を拝し、清掃奉仕をさせて頂きました。

尚、最後には宣誓文を参加者全員で話し合い作成しました。我々は前期・後期教習で学んだことを基本として、次のことを宣誓致します。

- 一 朝夕のお勤めを生活の一部としていきます
- 一 念仏して生きる喜びを求めつつ生きていきます
- 一 同朋の皆さんを大切に支え合いながら聞法をしていきます
- 一 善人であり続けようとする心を自覚し仏の教えと向き合っていきます

閉会式がすみ、最後は講壇拝観。改装後の御影堂、阿弥陀堂、白書院、大寝殿。その他、ご修復現場の視察。この三日間、夫婦二人で参加をさせて頂き、大変良かったと思っております。ありがとうございました。合掌

# 報恩講

## 報恩講

・10月31日(日)  
午前11時~3時まで  
(10時30分受付)

・日中法要厳修  
・お斉(お食事)  
・法話 櫛暁師  
(元教学研究所有長、  
法泉寺前住職)

・講題 真実の宗教  
—私にとって報恩とは—  
・場所 光照寺本堂

※準備の都合上、出席の際はお寺にご連絡下さい。

【報恩講は宗祖、親鸞聖人のご恩徳に報謝し、いのちの道理を深く尋ねる法要で、一年の中で最も大切な仏事です。真宗門徒として必ず勤める法要であり、光照寺の今年度最後の大きい法要ですので是非ともご参詣下さい。今年も櫛暁先生をお迎えして厳修致します。】

「ただ念仏」に帰着する教えが、難しいとか、分かりにくいという声をよく耳にします。私自身もそう思うことが多々あります。しかし、心の奥底では善悪を超えた無

々な思いで迎えています。法要の眼目である仏恩報謝というところが二の次になってしまっていることが毎年の反省点です。来年は法然上人が八百回忌のご法要を迎え、宗祖親鸞聖人は七

毎年報恩講を勤めることが恒例となりましたが、法要の重さと身の引き締まる緊張感、一年が終わっていくという焦りと不安、また次の年への希望や期待というような、様

分別の世界、絶対自由・平等の世界を求めているのが私達であって、知的関心に留まらず、心の深層の欲求が仏の本願を聞き開きたいと願っているのだと思います。その確信が「多くの人に広まっていく教え」だと云えるのではないかと思います。作家の五木寛之氏の「親鸞」が書店に並び、たちまちにベストセラーになり、親鸞旋風が巻き起こっている感を覚えます。ある人は「五木さんの世界に引き込まれ、親鸞という人が身近に感じられ、人間の抱え持つ苦悩というものに正直に向き合った人だとよく分かった」ということを話されていました。現代は布教活動が難しい

## ひとくち 歎異抄

羅漢：善人と悪人のどちらが先に救済されるのか。  
「善人なおもて往生をとぐ、いわんや悪人をや。」 第三章



阿弥陀様の本願の本意は、悪人と目覚めた人こそ、先に仏と成る者ですといわれています。

川越喜多院の五百羅漢



盂蘭盆会法要

という指摘もありますが、混迷を深める世の中であり、苦悩しつづける私達が求めてやまない、お念仏の教えを発信していければ有難いです。ささやかではありますが、ご縁の皆様と節目の法要を厳修していきたいと思えます。  
ご家族、縁者お誘い合わせの上、ご参詣下さい。お待ちしております。  
副住職(釈徹照)



— 事務所より —

◆法要のご案内

●報恩講

十月三十一日(日)午前十一時より厳修。

●修正会

平成二三年一月一日元旦、午後一時より厳修。新年を阿弥陀如来のご尊前より出発致しますよう。

◆聞法会のお知らせ

●親鸞聖人のみ教えに聞く会

毎月開催。午後二時半～四時半まで。講師は樗曉先生。和讃を学んでいきます。日程は当寺にお尋ね下さい。(※十月は報恩講です)

●大經の会

十月二日、十一月十三日、十一月十八日、午前十時～午後三時まで。講師は佐々木師と住職の担当月別。お弁当持参して下さい。

●我聞の会

十月十八日、十一月十五日、十二月八日、午後二時～四時まで。講師は住職。

●微風学舎

毎月開催。午後七時～九時まで。講師は副住職。「頭浄土」の教学を学んでいます。日程は寺にお尋ね下さい。

●さいたま親鸞講座

午後二時～四時まで。会場は大宮川鍋ビル。十一月十一日、平成二三年二月十二日、四月一日。

●「親鸞聖人に人生を学ぶ講座」全六回。

十月十六日、十月十八日。会場は一心寺(浦和)詳細は当寺にご連絡ください。

●お願い

ご自宅で法事の際は駐車場をご用意下さい。宜しくお願いします。

俳句・川柳

吉澤 光昭

にがうりの作る日除けの程よしき  
朝顔に背丈ぬかれし今朝の延び  
推敲も重き想いや終戦日

西木 順子

佐渡生まれの祖母ありし日やとこ  
ろてん  
ミントの花折りとる朝の草むしり  
「遠くからくろくろさん」と西瓜に  
いう

花岡 要

故郷に知るべしなれし墓語で  
またしても愚痴が出るなり大日照り  
思はずも念佛が出る口蹄疫

河野 日出子

すだれして涼求めるもこの暑さ  
松が枝の緑濃くして百日紅  
何方に夕立ありて風涼し

朝顔や顔それぞれ風情かな  
白百合の咲いて清しき今朝の風  
鬼灯や頬染めながら衣を脱ぎ  
亡き人等戻り来たよな蝉しぐれ

釈 義深

薙刀を持った悪僧威嚇する  
道理でも無理を受け入れ穏やかに  
何事も南無阿弥陀佛信じます

せつない恋砂浜埋めて旅に出る  
浜登願想い出させるビルの谷間  
猛暑なか不満もあろうにカラス鳴く

短歌(詩)

佐藤 セツ子

一面の早苗田となり今宵より蛙の  
声につつまれ眠る  
道の端に瀕死の犬を寄せ来しと告  
げたる吾子も花の浄土に  
庭先の桜もいつか春もみじ亡き子  
想いて今日も見ている

河野 日出子

夕顔の白き花びら涼風のそよぎ待  
ちわび月に咲く宵  
心病み逝った我子の高いびき夢の  
中だに聞けぬ短夜  
大暑、土用、うなぎ井亡き子思え  
ば何故さびし

赤秀 品枝

「享年二十八歳」刻む墓石や手向花  
何はともあれ南無阿弥陀仏

篠原 潤子

夏聖会身は軽々と笑多くと教の通  
りならぬ悲しさ  
二メートル青大将が水を飲む秩父  
の山辺で身も縮こまる  
龍神がおばばと私の目の前に現わ  
れる夢八月五日に



梵鐘

暑すぎた夏

毎日暑い日が続いている五  
十年前には、二十五度を越せ  
ば海水浴に行つたけれど、今  
は冷房を二十五度に設定する。  
体感温度がずい分低くなって、  
二十度では寒くなってくる。  
日当りの良い所の車中の温度  
が七十度にもなる、ハンドル  
があつくてもてなくなる。車  
中に忘れられたお年寄りが亡  
くなったり、室内でも熱中症  
でたおれたり、一ヶ月に百人  
もの人が熱中症で亡くなって  
いる。これから地球はどうな  
っていくのだろうか。このま  
ま紫外線が強くなつては困る。  
生ビールのたるが暖まって味  
が落ちるそうである。それで  
かどうか、ハイボールが良く  
売れて角瓶のウイスキーがど  
の店にも並ぶようになった。  
時代の流れがどんどん変わつて  
いく。秋にはどう変わるのか。  
暖かい冬が何をもつてくるの  
か、チヨット楽しみでもある。  
(釈尼民徳)